



▲小山 司(こやま・つかさ) 20歳。男衾中〜武蔵越生高〜帝京大。現在3年生。箱根は今年初出場。5区を担当し区間12位。



入って、チームの調子がよかったですし、これはいけるのではないかと思いましたが。

町長 他大学も調子がいいと言われていた中でも、今年はいけると思っていたのですか。

設楽悠 そうですね。

町長 宇野さんにお聞きしますが、今年の監督の雰囲気は4年生から見てどうでしたか。

宇野 昨年に比べると落ち着いていました。チームのできもよかったですし。

町長 一人ひとりのパフォーマンスがよかったですか。

宇野 そうですね。去年の結果を基にした参考タイムがあったのですが、追い込み練習でチームのみんなが大幅にそのタイムを超えていたので、チーム全員自信が持てましたし、監督自身もいけると感じていたようです。監督の今年の目標は、3分以上のレコードタイムを出すというものもありましたので。

町長 監督の去年1年の印象的な言葉はありましたか。

宇野 「21秒の悔しさを忘れるな。このまま同じ流れでは勝てないぞ！」と

年生のときも走りたくて出場しました。

町長 その駅伝は、町駅伝ですか。

宇野 町駅伝も走りましたし、全国大会につながる中学駅伝もありました。

町長 そうですか。宇野さんは、駅伝自体を面白いと思っていたわけですね。

宇野 そうですね。

町長 小学校でもマラソン大会がありますよね。小学生時代も上位の成績だったのですか。

宇野 そうです。

町長 中学時代、川音先生とのどのような思い出がありますか。

宇野 毎日楽しく走っていたのが一番印象に残っています。

町長 当時の先生は、記録についてはあまり言わなかったですか。

宇野 記録そのものよりも、走る楽しさを教えてくれたのが川音先生でした。

町長 では、悠太さんにお聞きしま

言っていました。

帝京大学・小山さん、箱根への思い

町長 それでは、帝京大学の小山さんにお聞きします。小山さんは去年の大会は出場できませんでしたが「今年は何と走るぞ！」という思いはありましたか。

小山 去年は、5区を走ったのが4年生の先輩だったので、その枠が空いたので「今度は自分が走るぞ」という気持ちがありましたから、それを実現できたことはよかったです。

町長 東洋大学の仲間(同じく男衾出身)に対する思いはありましたか?

小山 特になかったです。

町長 5区は東洋大学の柏原選手が注目される中での出場でしたが、小山さ



すが、宇野先輩はサッカー部だったということですが、悠太さんは小学時代どんなスポーツをしていましたか。

設楽悠 小6から陸上を始めました。

町長 男衾には陸上クラブがありましたよね。陸上を始めるきっかけは、自ら進んで始めたのですか。それとも親に勧められてですか。

設楽悠 親に勧められました。

町長 小学時代から足は速かったのですか。

設楽悠 そうでもないです。

町長 中学生になって、陸上部に入って「頑張るぞ!」という気持ちになりましたか。

設楽悠 中1時代は、ただ走っているだけの感じでしたが、中2時代からだんだん記録が伸びてきて、もうちょっと上を目指そうかなという気持ちになりました。

町長 この記録ならやれるのではな



▲宇野 博之(うの・ひろゆき) 22歳。男衾中〜武蔵越生高〜東洋大卒。箱根は4年連続出場。今年は1区を担当し区間4位。卒業後は本田技研工業株式会社へ入社。

んの区間記録も出場者の中ではいい記録でしたよね。

小山 自分としては満足してはいませんが……。

町長 次につながるという評価を得ていますよね。

小山 正直、1年生のときは出場できなくても仕方がないと思うような部分がありました。大会でサポートメンバーにまわって、実際に生で大会を見て、自分は何をやってきたのだろうという悔しい気持ちも湧き出してきました。2年生になってからは、その気持ちがありましたので、練習も積極的にになり、それが初出場につながったので、よかったです。

町長 チームの雰囲気はどうでしたか。

小山 去年の合宿のときは、チームの調子がよかったです。

いかと思った大会であるとか、記録でみるとか覚えていることはありますか。

設楽悠 中2時代にトラック競技で県大会に出場できてから、来年はもう少し上にいけるのではないかと思います。

町長 川音先生との思い出がありますか。

設楽悠 男衾中陸上部で、全国中学校駅伝大会平成18年第14回大会出場(第10位)に連れて行ってあげられたことです。

町長 チーム一丸となつて、全国大会に行けたんですね。それが先生への大きなプレゼントになったわけですね。悠太さんはいかがですか。小学校6年生のときに「陸上頑張るぞ!」という気持ちはありましたか。

設楽悠 小6時代はひたすら走っているだけでした。

町長 中学生になって、陸上部に入部してどのような気持ちで練習していましたか。

設楽悠 中1時代はよい記録も出ませんでした。中2時代から冬場のロードレースに出場することに記録が伸びてきて、そこからつとががんばろうという気持ちが出てきました。トラック競技の全国大会を目指そうと思いましたが、けがで惜しくも出られませんでした。

町長 それは惜しかったですね。

設楽悠 中3時代は陸上部のメンバーもそろっていたので、全国大会を目指そうということになりました。

町長 川音先生からかけられた言葉で覚えている言葉がありますか。設楽悠 「しっかりしろ!」です。



町長 小山さんはいかがですか。中学時代は同じチームメイトだったわけですか。

小山 陸上は中学生になってから始めました。小学生時代の持久走は上位の成績だったので、自分もやってみようと思いついて陸上部に入部しました。

町長 そんな中で、切磋琢磨したのですか。

小山 中1時代はあまりよい記録も出なくて、特に大きな目標もなかったのですが、ひたすら練習に取り組み、駅伝メンバーに入れたらいいなと思うようになりまして。中2時代からだんだん記録が伸びてきて「これなら狙えるな!」と思えるようになりました。中2